

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

公共交通の利用回復に向け、岡山県内のバスや鉄道の運行事業者が魅力発信に取り組み、記事を読み、質問に答えましょう。

Q1 岡山市内を走る「銭湯風バス」の車内、座席にはどんな特徴がありますか。第3段落を参考に説明しましょう。

Q2 鉄道会社の取り組みを説明する次の文の [] を埋めましょう。

一度は廃車とした []

を復活させた。

[]

の名画で車体内外を彩った「アート列車」を投入。

[]

を実施した。

Q3 皆さんはどんなバスや列車に乗ってみたいですか。文章やイラストで表現しましょう。

特別仕様バスやレトロ列車…

長引く新型コロナウイルス禍による利用低迷を打開しようと、県内のバスや鉄道の運行事業者がユニークなPR作戦や魅力発信に乗り出している。新たな利用客の獲得を狙いに特別仕様バスを次々投入したり、鉄道ファンの心をくすぐるレトロ車両を走らせたりしている。

(立田さくら、黒瀬空)



車内を銭湯風に飾った両備グループのバス

公共交通 利用回復へ

「あったかいんだからあ〜」両備グループ(岡山市)が同市内で走らせるバスの車内。乗客が降車ボタンを押すと、チャイム代わりにお笑いコンビ・クマムシのヒット曲が流れた。

グループが昨年12月から走らせている銭湯風バス。車両1両を改装し、車内に風呂おけや富士山の風景画を飾った。座席は温熱効果のある繊維で覆い、利用した会社員三木原輝美さん(岡山市)は「シートが温かくてうれしい。内装もかわいらしい」と話す。

同グループのバス利用者は、コロナ禍の影響から2020年度が前年度比29%ダウン、21年度も同6%減の苦境にある。「宇宙一面白い公共交通を目指す」と銘打ったキャンペーンを昨年1月に開始し、プラネタリウムバスやアート展示バスなどユ

県内事業者

あの手この手で魅力発信

ユニークな車両を次々投入。銭湯風バスは第10弾で、一般車両より4割近く乗客が増えた企画もあった。今年1月からは、車内を鯛やだるまなどで飾った「福、来バス」を追加した。同グループは「何とか注目を集め、乗車のきっかけをつくらせて、路線存続につなげたい」と狙いを説明する。

鉄道会社も工夫を凝らす。水島臨海鉄道(倉敷市)は旧国鉄から譲り受け、一度は廃車としたレトロ車両「キハ205」を昨年3月に復活。乗車体験や写真撮影会に活用する。全国で2両しか残っていないとあって、ファンが遠方からも訪れる。

井原鉄道(井原市)は大原美術館(倉敷市)の名画で車体内外を彩った「アート列車」を21年3月に投入。旅行会社と連携した団体ツアーを昨年4(9月)で9件実施し、着実にアートファンを引きつけているという。

共通するのは、楽しく魅力的な乗車体験を提供し、幅広い乗客を獲得しようという思い。井原鉄道は「著名な美術館がある岡山ならではの列車。名物に育て、鉄道と地域の両方の魅力をアピールしたい」と意気込む。

2月7日付山陽新聞、全県版

過去の問題は
こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。